

高齢者を 交通事故から守ろう

特集 なくそう交通事故

私たちの身の回りでは、毎日数多くの交通事故が起きています。その中でも、特に高齢者（六十五歳以上）の事故が増えており、今後、高齢社会の進展にともないその増加傾向はますます強まるものと予想されます。

平成九年に交通事故で死亡した人（全国で九、六四〇人）の実に三・七％（三、一五二人）が高齢者で、平成五年以降若者（十六〜二十四歳）の死亡者数を上回り、五年連続して最も死亡者数の多い年齢層になっています。さらに、わが国の高齢者人口は急速に増加し、三十年後には現在の一、七倍以上にも達することが予想され、今後も高齢者の交通事故が増加することが懸念されます。

このような状況にあって、高齢者の交通安全対策は、今後一層重要なものになります。

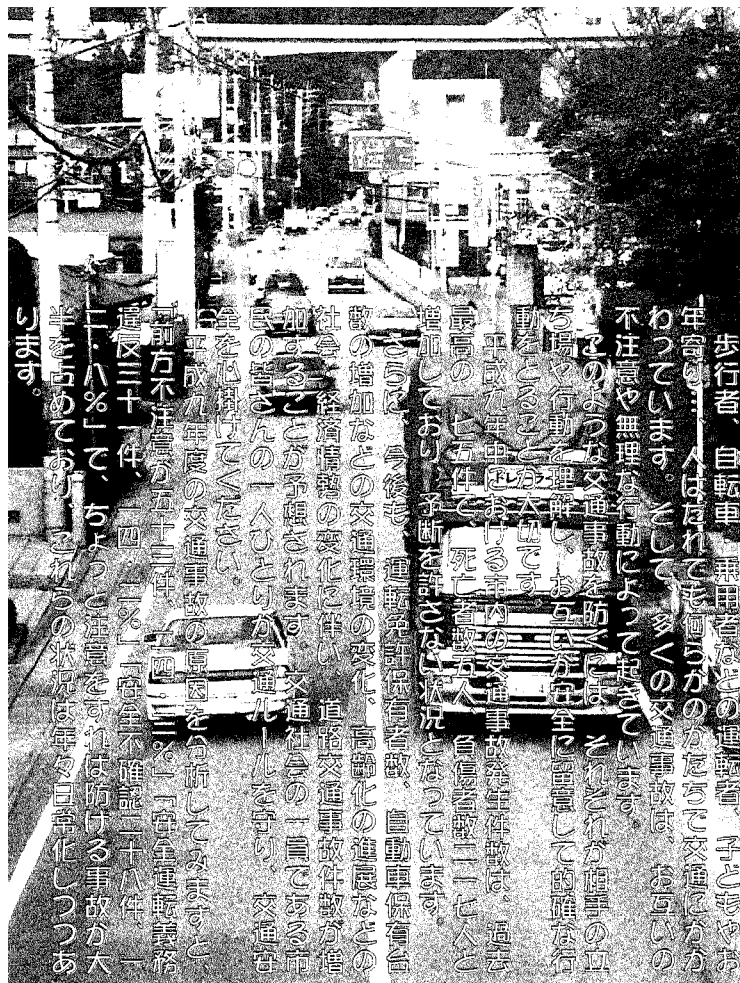


表1 過去5年間の交通事故発生状況（平成10年は8月末）

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
発生件数	140	116	135	144	175	102
死者数	1	0	2	3	5	4
負傷者数	179	154	191	174	214	128

表2 路線別事故発生件数（平成9年度）

	国道	県道	市道	その他	私道	合計
発生件数	99	30	42	2	2	175
死者数	3	2	0	0	0	5
負傷者数	125	35	50	2	2	214

その他は駐車場内

都留市における、過去五年間の交通事故発生状況（表1）と路線別に見た事故発生件数（表2）を表にしてみました。平成九年の数値が最近の中では、異常に高いことが分かります。

交通事故撲滅を目指し、歩行者も運転者も相手の気持ちに立つて、行動しましょう。